

## 1 学校教育目標

自ら学び向上し合う生徒      心豊かで協力し合う生徒      健やかでたくましい生徒

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・向学の精神に満ちた学校</li> <li>・礼儀と豊かな心を育む学校</li> <li>・夢や志をもち、主体的に自分の進路を切り開く生徒を育む学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ楽しさを知り、主体的に学習に取り組む生徒</li> <li>・他人を思いやり、礼儀正しい生徒</li> <li>・夢や志をもち、実現に向けて根気強く努力する生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を通じて学び続ける意欲のある教師</li> <li>・生徒のよさや可能性を引き出し伸ばすことができる教師</li> <li>・指導力や教科等の専門性を高め、主体的な学びを支援する教師</li> <li>・保護者や地域、関係諸機関との連携を図り、生徒の健全育成に努める教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

本校の重要課題である「学力向上」は、昨年度、区学力調査で3教科とも区平均通過率を上回った。継続している学力向上の取組が成果としてあらわれた結果となった。これからは、基礎学力の定着と主体的な学習による課題解決力の育成が求められている。そのために、授業規律をしっかりと身に付けさせ、落ち着いた環境で学習活動に取り組み、充実した教育活動を展開させていく。

### 【前年度の成果】

- 生徒アンケートによると「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒が83%であった。
  - 生徒アンケートによると「学校行事などに積極的に参加している」の質問に肯定的な回答をした生徒が82%であった。
  - 生徒アンケートによると「学校の決まりを守って生活している」の質問に肯定的な回答をした生徒が92%であった。
  - 生徒アンケートによると「授業はわかりやすいか」の質問に肯定的な回答が90%を超えた教科が6教科、80%を超えた教科が3教科であった。
- 一年間をかけて取り組んできた成果と捉え、さらなる向上に努めていく。

### 【前年度の課題】

- 主体的な家庭学習習慣や学習に取り組む態度が十分に身に付いていない。
- 一人に一台配布されたタブレット端末について、授業における生徒の活用頻度は週1回以上活用している教員が47%であった。授業における十分な活用には至っていない。
- 協働的な学びや課題解決学習等、コミュニケーション能力が十分身に付いていない。
- 地域に貢献できる大人になりたいという態度の育成が課題。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の充実	○	○	○	○	○
3	人権教育の推進			○	○	○

## 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区学力調査の目標値通過率の維持と向上		令和6年度調査 3科平均75%		3科平均76.8%		達成基準をクリアしたが、英語が課題。引き続き、習熟度に応じた学力の向上・定着を図る。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	授業における生徒のタブレット機器の活用率向上	全学年 5教科	毎授業	各教科、授業で月1回以上活用する。「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る。	教員アンケート	12月末時点で活用率100%以上	月1回以上活用した教員の割合は83%だった。	教科、教員によって活用に差がみられる。AIドリル以外のソフトの活用が課題。	△
2 継続	朝学習におけるAIドリル活用	全生徒 英語 数学 国語 理科 社会	火～金曜日 始業前15分	【指導体制】担任・国語科・数学科・英語科・社会科・理科 【取り組み内容・ねらい】毎朝、学習内容の復習・確認を行い、基礎学力の定着を図る。	教員アンケート	月に1週以上AIドリルを活用	年度当初に計画表を作成させ、計画通り実施できた。	年度当初に計画させ、実施することができた。	○
3 継続	AIドリルの授業内導入	全学年 5教科	毎授業	前時の振り返りもしくは本時の振り返り、確認テストでAIドリルを活用し学習定着度を確認する。	教員アンケート	12月末時点で月に1回以上の活用率100%	月1回以上活用した教員の割合は57%だった。	AIドリルの活用が定着していない。効果的な活用をさせていく。	△

4 継続	放課後補充教室 (熱血!花保塾)	全学年 5教科	月・火・木・金 15:20 ~16:00	【指導体制】学年教員・5教科の教科担任 【取り組み内容、ねらい】授業中に分からなかったことの質問の場とする。また、朝学確認テスト未実施者や自主学习ノートなどの宿題の未提出者を対象とした指導の場とする。 【使用教材】各教科のノート・プリント・ワーク	課題の完成や分からなかった問題の理解により、達成とする。	生徒の課題達成率 80%を目指す。	生徒の課題達成率は67%だった。	課題学習だけでなく各学年、各教科、コンテスト等の補充や補習学習の場として活用されている。	△
5 継続	夏季補充教室	1・2年 数・英 3年5教科 各教科で補習の必要な生徒を選出 各学年約15名程度	7月22日~26日(5日間) 各教科 50分	【指導体制】担任・教科担任・学年担当教員・学習支援ボランティア 【取り組み内容、ねらい】当該年度の前半期の内容でつまづきを解消する。教科担任・学年教員・サポートメンバーによって少人数指導を行う。ワークの問題の解き直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。【使用教材】プリント教材・ワーク等	課題の完成と学習内容の確認テストの実施	一人一人が課題目標を達成したと回答した生徒80%以上	課題目標を達成したと回答した生徒は82.9%だった。	目標を達成した。少人数指導で一人一人に丁寧な指導が行えている。	◎
6 継続	水曜放課後自習教室	全教科	毎週水曜日	自学自習の習慣を身に付ける場として、NPO 法人カタリバと連携し水曜放課後2時間程度、全学年を対象とした自習教室を開設する。	生徒アンケート	利用した生徒のうち「勉強のやり方が身に付いた」と回答する生徒が80%以上	「勉強のやり方が身に付いた」と肯定的な回答をした生徒は75%だった。	学習意欲が高まったと肯定的な回答をした生徒は85%であった。意欲から自学へ結び付けていきたい。	△
7 継続	小中連携の充実	各教科	全学年 全員	足立スタンダードに基づいた授業について研鑽を積み、ICT機器、AIドリルの活用や課題解決型授業を実施する。	教員アンケート	自己の授業改善に役立ったと回答する教員が80%以上	自己の授業改善に役立ったと回答した教員は92%だった。	目標を達成した。小中連携による共通実践を今後の授業で実践していく。	◎

<b>重点的な取組事項-2</b>		キャリア教育の充実		
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
自分の将来についてより明確かつ具体的な目標を定めることで生きることの意味を見出し、前向きな学校生活を送ることができるようにする。	生徒アンケートで肯定的評価80%以上	生徒アンケートで「将来の夢や希望をもつことができた」と肯定的な回答をした生徒は66%であった。	自己理解と自己有用感を高める取組を行っていく。	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体験活動	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	全学年全生徒を対象にした職業講話(花保未来ラボ)や職業調べ、職業体験を実施し、働くことへの理解と意欲の向上を図る。	生徒アンケートで「将来の夢や希望をもつことができた」と肯定的な回答をした生徒は 66%であった。	体験活動が自分の将来の夢や希望、進路への関心・意欲に結び付けられるよう取り組んでいく。	△
ボランティアマインド	生徒アンケートでボランティア活動について肯定的評価 60%以上	地域などの行事にボランティアとして活動することで社会への帰属意識を高める。	生徒アンケートで「ボランティアに参加した」と肯定的な回答をした生徒は 35%であった。	「分からない」の回答が 21%だった。啓発の仕方を工夫していく。	△
学校行事	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	魚沼自然教室、修学旅行、運動会、文化祭などの学校行事を通して、主体的な活動への意欲と、目標をもって取り組む姿勢をもたせる。	生徒アンケートで「学校行事などに積極的に参加している」と肯定的な回答をした生徒は 88%であった。	達成基準を達成した。生徒が作り上げる行事を行っていく。	◎

重点的な取組事項－3		人権教育の推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
楽しく学び合い『わかる・できる』ことを目指す授業と居心地のいい学校・学級づくり	WEBQUで学級生活満足群の全国値を上回る。	2 回目の調査で9クラス中8クラスが全国値を上回った。	2 回目の調査では、学級生活満足群の値が全国値を 10.6%上回った。全クラス全国値を上回ることを目指す。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
福祉プロジェクト	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	1 年次車いす体験、2 年次認知症サポーター養成講座、3 年次高齢者声掛け訓練を実施する。これらの体験を通じて、障がい者や介護に関する理解を深め、心のバリアフリーを浸透させる。	体験後のアンケートでは、90%以上の生徒が福祉について学ぶことやバリアフリーの大切さが分かったと回答した。	体験をすることで福祉について自分事として学ぶことができた。	◎

ポジティブな行動支援の取組	生徒アンケートで自己肯定感について肯定評価 70%以上	学校独自のポジティブな行動支援の取組を充実させることで、人権に一層配慮した教育活動を展開できるようにする。	「自分には良いところがある」と肯定的な回答をした生徒は 58%であった。	生徒が主体的に活動する場を設定することや良いところを認める指導を行っていく。	△
ユニバーサルデザインを取り入れた授業	生徒アンケートで授業について肯定的評価 85%以上	安心できる学級・居心地のよい学級づくりを行い、「わかった・できた」授業を行う。	「授業がわかりやすい」と肯定的な回答をした生徒は 92.2%であった。	達成基準を上回った。「わかった、できた」を実感できる授業を行っていく。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ア 学力向上アクションプランについて

【成果】区の学力調査の結果では、昨年度に比べ通過率は3科平均で1.9ポイント上回り、令和6年度の区3科平均の通過率も上回った。

【課題】1年英語の領域3「書くこと」の文字の記述が全国比-5.1ポイントだった。

【対策】家庭学習や放課後補充で、アルファベットの正しい書き方について繰り返し練習させる。

イ キャリア教育では、2年生の職場体験をはじめ、花保未来ラボ（職業人による講話）を実施することができた。また、3年生向けに高校の先生を講師としたマナー講習を実施した。次年度以降も生徒が主体的に進路・職業選択ができる進路指導を学校運営協議会と連携して実施していく。

ウ 人権教育については、地域のお祭りや行事に本校の生徒がボランティアとして活動する機会が増えた。地域に貢献できる生徒の育成を図っていくためにも、ボランティア活動を全校生徒に広めていきたい。また、自他ともに大切にすることを、特別の教科道徳等を通じて育てていきたい。

#### (2) 保護者や地域へのメッセージ

コミュニティ・スクールの指定を受けて4年目となりました。今年度、花保フェスタでは開かれた学校づくり協議会を中心に、PTA役員、保護者の方々の協力のもとコロナ禍前に迫る規模で開催することができました。また、野菜作りや稲作づくり、NPOカタリバと連携した自習教室などコミュニティ・スクール指定校としての強みを生かし、「地域に根差した学校」として歩みを進めています。

学習活動においては、ICT機器を「思考・表現のツール」として効果的に活用した授業、生徒主体の授業を実践し、確かな学力の向上へ繋げていきます。生徒一人一人が持っている能力や可能性が発揮できる教育活動を行っていきます。保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

#### (3) その他（学校教育活動全般について）

本校は、「自立と貢献」を掲げて教育活動を行っています。そのために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育活動を行っていきます。授業では、すべての生徒にとって分かりやすい授業を行っていきます。安心して学べる教室、居場所のある教室を作り、学校環境を整えていきます。本校の生徒は、「自分には良いところがある」と肯定的回答をした生徒の割合が低い結果となっています。望ましい行動を増やし、結果として望ましくない行動を減らすPBS（ポジティブ行動支援）や積極的に生徒の良いところを認めほめる指導を取り入れていきます。目の前の生徒としっかりと対話し、教育活動を行っていくことが大切と考えます。学校は人を育てる場であり、一人一人の可能性を伸ばす場であり、保護者・地域の方と連携してお子様の成長を支援し、教育活動を行っていきます。

